

【アメリカ】リバランスの実施の検証に関する下院公聴会

海外立法情報課 新田 紀子

* 2014年1月28日、下院軍事委員会は、国防省関係者を招いて、「アジア・太平洋地域へのリバランス:その実施を検証する」と題する公聴会を開催した。日本関連の発言を紹介する。

公聴会の冒頭、バック・マッキオン（Buck McKeon）軍事委員長（カリフォルニア州、共和党）は、アジア・太平洋地域へのリバランスが言葉だけでなく実施されているかどうかは、一部に確かな兆候もあるが、時間がたてばわかるであろうと述べつつ、中東・アフリカ情勢を踏まえ、米中央軍やアフリカ軍にリスクを負わせる余裕があるのか、予算削減の影響、同地域での米国の政策目標などの関心事項を明らかにした。

(1) 日米防衛協力

マイケル・ランプキン（Michael Lumpkin）政策担当国防次官代行は、冒頭発言で戦略目的のための同盟国などとの協力を説明した。日本とは、防衛省との1997年以来となる日米防衛協力のための指針の再検討や、長期的に維持可能な米軍のプレゼンス、とりわけ沖縄における海兵隊のプレゼンスを維持するべく戦力再編を行っていること、防衛体制や宇宙における安全保障体制の向上のために協力していることを述べた。

(2) ミサイル防衛

フランク・ケンドール（Frank Kendall）調達・技術・兵站担当国防次官は、冒頭発言で、核弾頭搭載の可能性がある中・長距離弾道ミサイル開発を北朝鮮が進めていることとの関連で、米国が、①米国における地上配備型迎撃ミサイル配備の増加、②THAAD（終末高高度）ミサイル防衛システム砲兵部隊のグアム配備、③日本で2基目のTPY-2（Xバンド）弾道ミサイル探知レーダーの導入の過程にあり、これらによって、米本土及び日本を防衛する能力が向上するであろうと述べた。また、こうした努力は、日米で共同開発中のスタンダードミサイルSM-3ブロックIIAを含む、弾道ミサイル防衛能力一般を強化するために進行中のイニシアチヴを補完するものであると説明した。

(3) 「グレーゾーン」の問題

ランディ・フォーブス（Randy Forbes）軍事委員会シーパワー・投射戦力小委員長（ヴァージニア州、共和党）は、尖閣諸島での哨戒活動、東シナ海での防空識別圏（ADIZ）の設定、米海軍ミサイル巡洋艦カウペンズ号と中国海軍艦船のニアミス事件（注1）、南シナ海における中国の新しい漁業規則といった最近の中国の行動に言及し、紛争に拡大する最もありうる原因は、日本が、平時と有事の間の「グレーゾーン」（注2）と呼んでいる、絶え間ない低レベルの争いではないかとの見方があると述べた。そして、米政権は地域の「安全保障」機構の構築などでこれらに対応してきたが、成果が出るには何年もかかることを踏まえ、中国との外交努力のみならず、調達や計画の観点か

らこの「グレーゾーン」で米国の利益を守るために米政府ができることはあるかと尋ねた。これに対し、ランプキン次官代行が、台頭しつつある中国は、軍事的能力を構築し、太平洋全体に活動を拡大しており、米中間の相互作用が増えるのは自然であると答えるに留まったため、同議員はさらに、こうした中国の活動は同国が攻撃的な政策を採っていると理解してよいか、と尋ねた。これに対し、同次官代行は、中国は自らのプレゼンスをアジア・太平洋地域に知らしめようとしている、しかし例えば、ADIZの設定については、米国は認めていない、米国の国益が直接に挑戦されたとは思っていないと答えた。同議員が、重ねて、中国の行動は、航行の自由、通商の自由な流れ、国際法に則った紛争の平和的解決といった米国の国益を犯していないというのかと尋ねたのに対し、同次官代行は、現段階では否と答えた。

(4) 米軍再編

在沖縄米海兵隊のグアムへの移転などの米軍再編は、米国の同盟国へのコミットメントを示すことに役立っているのかと尋ねられ、ランプキン次官代行は、在沖縄の海兵隊を普天間からより人口の少ないキャンプ・シュワブへ移転すれば、住民へのリスク軽減になり、また、最大5,000名の海兵隊員のグアム移転により、グアムをアジア・太平洋地域の重要な拠点として再構築することになると答えた。

(5) 日韓関係

日韓関係への懸念を踏まえ、米国は、どのようにこの2つの重要な同盟国の溝を埋めようとしているのか、米国はより積極的な役割を果たす必要があるのではないかと尋ねられたのに対し、ランプキン次官代行は、日米韓の3か国間には、最近の問題はあるものの、歴史的にはより大きく深い関係があり、障害を乗り越えることについては楽観的であると答えた。米軍と日韓両国の関係、北朝鮮の脅威への対抗の観点から日韓両国の信頼と協力の構築の可能性について尋ねられたのに対し、ケンドール次官は、米軍は、両国それぞれと非常に建設的な関係を有していると答えた。

(6) 日本へのコミットメント

同盟国の日本では、米国のアジア・太平洋地域へのコミットメントや意図、目的について混乱があるようだが、日本が米国のコミットメントを信頼できるよう、米国はどのようにこれらを明確にしていくのかと尋ねたのに対し、ランプキン次官代行は、日本とはリバランスについて定期的な対話を行うとともに、普天間代替施設への移転、在沖縄海兵隊の移転も進んでおり、心配していない旨答えた。

注(インターネット情報は2014年3月4日現在である。[]は筆者による補足。)

・下院軍事委員会の公聴会の模様<http://armedservices.granicus.com/MediaPlayer.php?view_id=2&clip_id=284>

(1) 2013年12月5日、南シナ海で、カウペンス号に中国海軍艦船が100m近くに接近したニアミス事件。

チャック・ヘーゲル (Chuck Hagel) 国防長官は、「無責任な行動」と述べた。<<http://www.defense.gov/transcripts/transcript.aspx?transcriptid=5345>>

(2) 例えば<<http://www.mod.go.jp/j/press/kisha/2013/10/29.html>>参照。